

## 歓迎されないもの

### 1. ヤマナメクジ

音も立てない、色にも気付かない、踏みつけるとそのボリュームを感じてぎよっとする怪物です。動いている場面より、ゴロンと転がっている姿に出会う機会が多いのです。鶏のささ身2本分くらいの大きさと太さです。



アカヤマドリを食べる  
ヤマナメクジ

体長10cm以上といっても動く時は20cm以上の長さにもなり、巨大なナメクジに驚かされます。シイ林の下、落ち葉の積もっている部分の色と同じ色彩・濃淡で、樹幹にいる場合もあります。ヌメヌメは割合に少ないのですが、這った跡はやはり光る筋ができます。

餌はコケや落ち葉、特にキノコを好むらしく、キノコのあたりで見たとの情報があります。写真は、夏に生えるキノコのイクチの仲間で、大型のアカヤマドリを食べている個体です。このキノコは遊歩道沿いに毎年かなりの数が出現しますので、ヤマナメクジを探す手がかりになるかもしれません。



ヤマナメクジ

### 2. ササクサ

遊歩道を歩いただけでズボンにたくさんの「ひっつき虫」が付きます。少し明るい草むらに入ろうものならなおさらです。その中でも、後で取りにくいのがササクサです。



ササクサの穂



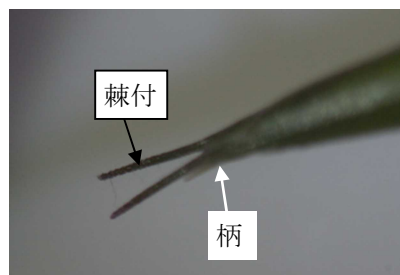
ササクサの葉

葉がササに似ているところから名付けられた多年生の草で、毎年同じ場所で被害に遭います。葉だけの時期は気にならないのですが、穂が出て実が熟してくると、重さで傾いて道に被さってきます。通りかかる動物を待つ姿勢になるのです。

種はイネの籾殻(もみがら)に相当する細長い穎(えい)に包まれています。先端には実らない花の穎が小さく変化した細い柄がついていて、この穎の小さな棘が逆向きに付き、戻しとなっています。

この部分が衣服の繊維の間に入り込むと抜けなくなります。実を引っ張ると柄の部分で取れてしまって、棘付きの穎は残ってしまいます。取るためには向こう側に追い出すしかありません。「ひっつき虫」を取ってもいつまでもちくちく刺さります。

動物にくっ付きやすく、種子の部分だけはさっと離れて分布を広げる、これがササクサの戦略です。



棘付の穎